

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

平成 26 年度通常総会 補足資料

■ 通常総会タイムテーブル (あくまでも目安です。状況により変更となります)

時刻	時間	内容
15:10～15:30	20分	定足数確認、開会、議長・議事録署名人選出、趣旨説明、役員紹介
15:30～16:00	30分	第一号議案 平成 25 年度事業報告並びに決算及び監査報告について
16:00～16:50	50分	第二号議案 平成 26 年度事業計画並びに予算について
16:50～17:00	10分	第三号議案 平成 26 年度役員を選任について
17:00～17:10	10分	その他質疑応答・意見交換、閉会

■ 「総会議事資料に関する意見交換会」ご報告 (Q&A 集)

全国 7 地区・8 会場で開催した「総会議事資料に関する意見交換会」での質疑応答をまとめました。

1. ミッション、ビジョン、その他活動全般について

- 1) ファシリテーションという言葉の認知度として、理事会で把握している数値などはあるか？ 10 年前と比較して認知度が上がっているという実感がない。認知が上がっている領域(例えば教育分野とか)と上がっていない領域(例えば企業の工場とか)があるように思う。
→ 理事会として把握している数値はありません。現在作成中の白書が該当すると思われませんが、質問して頂いた意図に合った数値が載せられるかは不明です。認知度のようなものを毎年測っていくなど、定点観測の必要性は感じています。
- 2) 今期計画でいろいろな事業を新しく進めていくことになると思うが、どのように進めていくことになるのか？
→ 計画の中に「()」書きで組織の名前を書いています。この部署がそれぞれ進めていくこととなります。新しい事業の担当で理事会の名前が多いのですが、当然、理事会だけでできることばかりではありませんので、会員の中で意思のある方々を募り、一緒に進めることとなります。
- 3) 実践者を増やすというが、増えたかどうかどうやって計測するのか？ どういうイメージか？
→ 例えば、ファン活、災害復興支援室に関わる会員数や白書での調査結果などは指標になるかと思われます。実践者数を測る方法そのものを理事会ではまだ議論していません。引き続き検討します。
- 4) FAJ らしい組織運営とは？ 地方支部の組織運営について見えずらい。変革強化として、地方にももう少し目を向けた内容を盛り込んでどうか。
→ 理事会からリクエストはありません。自律的に活動いただき、それを支援したいと考えています。
- 5) 「最適な運営体制」の目指すところは、どこか？
→ ボランティアな組織で約 1,800 人の会員がいる団体を運営していく方法を検討していきたいです。
- 6) 運営基盤の強化は具体的にはなにか？
→ 専従職員を置くことは考えていません。適正な運営として、WILL・CAN・MUST のバランスをとりたいと考えています。FAJ らしく、やらされているのではない、協働のあり方でやっていきたいです。ほかの組織にはないあり方、ある意味、チャレンジです。その上でも予算執行上の適性度合いも高めていきたいと考えています。
- 7) ボランティアという説明があったが、無報酬ということか？
→ 運営に関しては報酬にあたるものは払っていません。規程に沿って交通費等は支給しています。報酬のあるなし、だけではなく、自主的に参加をしていることを強調して表現しました。
- 8) 事業報告書を FAJ らしく「見える化」して欲しい。議論しやすくなる。
→ ご意見として承ります。
- 9) 議事資料のボリュームが多いので目次をつけてほしい。

→ ご意見として承ります。

2. 調査・研究事業について

10) ファシリテーターが成長できる定例会とはどんな定例会か？またその検証はできたのか？

→ やり方は各支部にお任せしました。成長を促進する枠組みの検討やアンケート調査を試行した支部もありますが、検証できたというレベルには至っていません。

11) 東京支部ではすぐに満員となって定例会に参加できないという事象もある。会場予算を割いて会場が確保されるようになることなので、それで参加できるようになることを期待する。

→ ご意見の通り、会場確保の問題は予算によって解消予定です。テーマによって人数に差があり、スキルのテーマに集まりやすいといった傾向があるのは残念に思っています。

12) 以前はスタッフ会議などの各支部の運営委員などが一堂に集まる会があったが、それが円卓会議になったという理解でよいのか？

→ スタッフ会議については、交流という目的が達成されたということで開催しなくなりました。シンポジウム等がその代わりになっていると意味づけています。円卓会議は、ある課題について理事会へ提言する施策を検討する時限的な会議体です。

13) シンポジウムに参加できない会員に、シンポジウムの成果をどうやって伝えるのか？U-Streamなどで動画を公開して欲しい。

→ 報告書をWEBサイトに公開することで還元する予定です。動画についてはご意見として承ります。

参考>昨年度(大阪)記録 https://www.faj.or.jp/modules/contents/index.php?cat_id=126

14) ファシリテーション力測定について。シンポジウム以外でやる予定はないのか？また資格的なものをめざすのか。

→ 昨年度、シンポジウムで取り組んだ人はご存じですが、自分のF力を体力測定的に把握してみよう、としています。現時点ではシンポジウムの一角で取り組む状況です。必要に応じてほかの場に活用していくようになってもいいのか、と思っています。また、資格的なものにしていく予定はありません。

15) 定例会は学習する場ではなく実践支援の場に舵を切る、ということでしょうか？

→ 定例会が会員のファシリテーション力の向上の場であることは変わりありません。実践すること自体が学習の一部であると考えています。

16) 実践事例の定例会は何件くらいあるのか？

→ 全体での集計はできていませんが、東京支部では2件ありました。

17) 変革とはなにか。それが具体化してから方策を考えたい。社会変革の方策だけでなく、方向性も会員自身が模索する場にしたい。

→ 変革の方向性とは、ビジョンで謳う自律分散協働型社会です。具体的にどういふ社会なのかといったイメージの模索は有意義と考えます。ぜひ、実現して欲しいです。

18) 実践を支援する定例会とは？

→ 例としては実践事例紹介や相談会などですが、やり方は各支部で考えてもらえればと思っています。理事会としては、会員に呼び掛けて実践者を支援するプロジェクトを立ち上げます。

19) サロンが取り上げられていない。実績や予算は？

→ サロンにも予算はあり、計上しています。ただし、活動はサロンに主体がありますので、FAJの実績として掲載するのは活動費補助の実績のみにしています。

20) 各プロジェクトの内容は？またプロジェクトの立ち上げ方は？

→ 昨年度は5つのプロジェクトが進行しました。それぞれのプロジェクトの活動目的は以下のとおり。プロジェクトの立ち上げ方は運営規程第9章「プロジェクト」を参照してください。

①グローバルファシリテーション研究会(G-FIT):海外とのファシリテーション交流を通じて新たなグローバルファシリテーション文化を生み出すことにより、急速にグローバル化しつつある日本の企業、社会や人々の活性化に貢献することである。その活動には、海外からの受信、海外との交流、海外への発信、国内の国際化という4つの柱がある。

②ファシリテーションかるた:ファシリテーション入門者が今後の学びや活動のために押さえておくといふ言

葉を楽しみながら学べるゲーム「ファシリテーションかるた」を開発する。

- ③NLP:ファシリテーションに、NLP(神経言語プログラミング)を活用して、ファシリテーションの効果を高めることを目的とし、ファシリテーションに使える NLP スキルの開発、実際にファシリテーターのやっている技をNLPの手法を使って、明らかにする。
- ④ビデオカメラ活用:「ビデオ」というメディアを、どのように使うとファシリテーションに寄与するのかを探究する。
- ⑤ファシリテーション演劇:演劇を通じてファシリテーターとしての感性を磨き、在り方を探索する。

21) 実践支援プロジェクトのイメージを聞きたい。

→ 実践支援に関する定例会を全国で横断的に行いたいと考えています。その企画を行うメンバーを会員から募集してプロジェクトとします。

3. 教育・普及事業について

22) 今期の計画上、教育・普及事業に書かれている新しいセミナーとはどういったものか、イメージがあれば教えて欲しい。

→ 理事会としてイメージを持っているわけではありません。基礎セミナーは一般に広く伝えていくものなので、例えば、もう少しターゲットを絞ったもの(例えば、教育関係者向けなど)になるのかもしれませんが。

23) セミナーの継続強化とあるが、回数や会場費共に減額なのはなぜか。

→ 昨年度は回数を増やしましたが、その結果、主に東京・関西などクラス数の多い地区で、運営上の負担が大きいという声も出てきました。そうしたことから、今年度は一昨年程度の回数に見直しています。

24) セミナーの開催回数を決めるプロセスは？回数増で負担が課題になったということは回数決定プロセスに問題があるのではないか？

→ セミナー委員会で決めています。東京・大阪は定期開催し、地方はその地域の要請に応じています。各地域での開催したい回数の積み上げで決定しています。地域で開催したいという思いが強く、実際に開催するために必要な事前準備や当日運営に従事するスタッフ等の体制不足が負担の原因です。今後はそのことに留意して開催数を決定していきます。[TK1]

25) 教育・普及事業の項で、今後力を入れるべき分野とあるがそれはどこか？

→ 万遍なく取り組むのではなく、ターゲットを絞って注力しようということを決めたところで、具体的なことは今年度検討します。

26) 教育・普及事業の「ファシリテーション実践者の相互支援機会の創出」は調査研究事業の「相互支援」と何が違うのか？

→ 教育・普及事業は外部の人に向けた事業ですので、そこが違うところです。

4. 支援・助言事業について

27) 災害復興支援室のメンバー公募がメーリングリスト等でされていないが、なぜか。また、ボランティア選定基準等があって選ばれているのか？

→ 委員会(室)のメンバーは、委員長(室長)が任命する規程となっており、公募や基準については特に定められていません。活動の特性上、活動の質の担保を考慮し限定的なメンバーで活動しています。

28) ここ最近、災害復興支援室の活動内容などが、メーリングリスト等で会員に公開されていないように思うが、どのように報告されているのか？

→ 災害復興支援室の活動報告は、理事会議事録の中で公開されています。

活動の結果得た、現場の経験やファシリテーションの知見は、今年度以降、記録としてまとめ、会員へ公開していくことを検討していきます。

メーリングリスト等での公開については、ご意見として、承ります。

5. 交流・親睦事業について

29) 交流親睦(支部イベント)は、東京と関西の予算差が小さいのではないか？もう少し東京は大規模にして

もいと思う。[k2][TK3]

→ 支部イベントは会場の大きさに依存する部分が大きく、東京と関西で比べると、会場費の予算は約2倍となっています。他の費用は、規模によらず、講師を呼ぶ/呼ばない等に左右されています。費用の掛け方そのものは別途議論が必要と考えています。

30) 他の NPO 等への交流をもっと増やしたらよいのではないかと？

→ 昨年度も各諸団体との後援等を行ってきました。今年度も引き続き、諸団体と連携していきます。

31) 事業報告には「民間との連携」という記述があるが、計画に書かれていないのはなぜか？

→ 元々計画にあったものではありません。たまたまある企業から FAJ と何らかの連携ができないかという依頼があり検討したことから実績として記載しました。その企業とは、期待しているもの・スピード感などに違いがあって、協働して何かをするまでにはなりません。今年度についても特に計画していませんが、機会があれば都度模索します。

32) 「グローバルファシリテーション推進委員会」の体制とか、目的、やることなどは決まっているのか。書いていないのでよくわからない。

→ 役割を「海外のファシリテーションの知見を取り入れるとともに、日本で蓄積されてきたファシリテーションの知見で世界中の課題解決の現場に貢献すること」としていますが、詳細は今年度検討していく予定です。

33) 他の NPO との交流に、もう少し積極的に取り組んで欲しい。

→ ご意見として、承ります。

6. 広報・コミュニケーション活動について

34) ニュースレターが全て紙ベースで配付されているが、ウェブで配信することで経費が削減できるのではないかと？

→ ウェブ化はされているが、反対意見もあり、紙ベースでの配付を止める議論まではなされていません。今後、ニュースレター編集委員会・広報プロジェクトで検討していきたいと思えます。

35) 白書チームの調査の結果は？ なぜ資料に結果が書かれていないのか。まだできていないのに、事業計画にも「検討」と書いてある。いまはどういう状況なのか、具体的にききたい。

→ 現在も作成中です。総会の日に公表を予定しています。白書は印刷物ではなく、データで公開する予定です。

36) ファシリテーション白書の目的と使い方は？

→ ファシリテーション普及度合いなどの定点観測を行うことで、広報などの用途に使用することを考えています。

37) 白書で認知度を示す話が出たが、短観(日本銀行企業短期経済観測調査レポート)のように、ざっくりと簡易に出せるような指標を考えても良いのではないかと。様々な領域で活躍する会員が多数いるのだから、ある程度の指標を出せるように思う。

→ ご意見として、承ります。

38) 最近 FAJ に入会した。入会前にウェブサイトなどを見たが、どんな活動をしているのか今ひとつ分からなかった。FAJ の活動内容をもっと公開していくのがよいのではないかと？

→ もっと情報公開を進めていくということについては、ウェブ編集委員会やニュースレター編集委員会、事務局等で、これまでも何度も議論になっています。何をどこまで公開するのかは、その労力なども含め難しい点がありますが、今年度の計画にある広報プロジェクトで検討していくことになります。

39) FAJ のウェブサイトを実質させると共に、そこにいかにアクセスさせるか？を考えるとよいのではないかと？

→ アクセスしてもらうためになんらか背中を押すことは確かに必要です。そのあたりも広報プロジェクトで検討していくことにはなっていくと思えます。例えば、ファン活の案件が増えてきたことの背景に会員の口コミがあります。そういった口コミで広げるのも会員数の多い FAJ では十分有効なことではないかと思えます。

40) プレスリリースの効果はあったのか？

→ 効果を測るまでには至りませんでした。

41) プレスリリース効果を測る方法としては、掲載されたマスコミの数を指標にする方法もある。

→ ご意見として、承ります。

42) 広報プロジェクト。具体的なメディアツールとは？

→ まだ具体的なところは考えられていません。立ち上げる広報プロジェクトですすめていきたいと考えています。

43) 「思わず会員になりたくなるような」とあるが、FAJ のビジョンに共感するような人が増えないと困る。

→ だれでも OK という意味ではなく、NPO としてミッションに共感してくれる方の参画を求めていることは変わりません。

7. 組織運営に関わる活動について

44) 事業計画の担当組織に「理事会」担当が増え、理事の負担が懸念される。年度末に色々決まったと落ちてきても反発がありそう。早めに巻き込み、理事から手離れさせ、FAJ 全体で進めていき、理事の負担を減らしては。

→ 同意します。巻き込みには難しさを感じています。早めに動きたいです。主体者を「理事会」と記載したのは、理事会の積極的な意図を表したものであって、実際には各種委員会や会員有志の方と一緒に進める予定です。一例として昨年度は円卓会議で教育・普及事業について考えていただきました。会員の有識者の意見で動くことは今年度も積極的に進めたいと考えています。

45) 会員の入れ替わりが多いことについて FAJ としてどのように認識しているか？

→ ミッションを是として動いている以上、仕方がないことと認識しています。共感者で継続していけばいいと考えます。月1回の定例会では日程が合わず参加できないという理由も大きいようです(退会者の申告では多い)。そういう方のために平日定例会などの機会を増やすということを考えている支部もあると聞いていますが、ぜひ取り入れていっていただきたいです。

46) ボランティア運営者の 300 人の出入り状況は？ 今年新しい活動が増えそうだが、人手は足りているのか？

→ 参画して欲しいという気持ちはありますが無理の無い範囲でお願いしたいです。一部の部署では運営に関わる人が固定化したり、少なく大変という話も聞きます。理事会として問題意識は持っています。

47) 役員選出について、何が問題でどのようにしていくのか。理事会で変えることが可能なのか。

→ 現在は理事と監事が同じ選出方法になっています。監事として推薦したい、理事として推薦したいということができません。推薦方法含め、プロセスが今のままでいいのか検討します。理事会で理事の選出方法の変更が可能なのか懐疑的、というご指摘はご意見として承ります。

48) セミナー委員長が理事候補になっているが、ガバナンスを担当する理事とマネジメントを担当する委員長を同時に担当することに違和感がある。

→ 委員長が理事を兼務することは過去もあり、規程上の問題はありません。ただし、指摘の点を考慮することを理事会でも議論しており、担当理事は別に置く方向で考えています。今回のプロセスは委員長人事の内諾があった後に、理事候補が決まったという事情もあります。

49) セミナー委員の人数が多いので、セミナー委員からの理事候補が多く選出されているということにはなっていないのか。

→ 理事会ではそのようなことがないことを確認しています。

50) スタッフミーティングや全国フォーラムなど支部を超えた会員の交流機会が減ってきているので、理事候補に誰を選んでいいのか分からなくなっている懸念があるので、留意して欲しい。

→ ご意見として、承ります。

51) 一昨年 FAJ のロゴを変えるという案について現在どうなっているのか。

→ 会員から募集をしました。会員投票も検討しましたが、変える目的がはっきりせず合意形成できませんで

した。今のところ再検討の予定はありません。

8. 決算、予算について

52) 今年度の予算の重点的な配分は？

→ 教育普及事業、助言支援事業の新たな事業検討や実践プロジェクト、広報プロジェクトなどを予算計上しています。その用途としては、理事会、委員会、会員有志などが対面で検討するための交通宿泊費などを予定しています。

53) 昨年度、災害復興支援室に収入があったようだが、どのようなものか？また何に支出されているのか？

→ 収入は支援先から受領した交通費等であり、そのまま交通費等として支出されています。最近、交通費等を支援先からいただくケースが増えており、昨年度中に、災害復興支援室から予算の修正案が提出され、理事会で承認しています。

54) 調査研究事業の事業費が前年度実績と比較すると400万円増額[TK4]になっているが、その理由は？

→ 東京支部で、安定的な定例会会場確保のため、大規模な会場を使用するために100万円程度が昨年度より増額になっています。その他、前年度は交通宿泊費と謝礼等約118万円、研究開発費43万円が未執行の大部分を占めていますが、これらの経費は、支部運営等の選択肢を広げ、柔軟な運営を可能にするために計上しており、未執行となったから即削減するとは考えておりません。また、予備費は設けず必要経費に振り分けました。

55) 支部間交流費が予算にないが、今年度はどうなったのか。

→ 調査研究事業の交通宿泊費にまとめて計上することとしました。

56) 内部留保が積み上がってきているのであれば、国際交流にかかる予算を考えたり、企画運営者の交通費や会場費などの予算ももっと増やして運営負担を軽くするなどの案はどうか。

→ 国際交流予算は、GF推進委員会にて検討の上、具体的な活動としては2015年度に予算化を検討します。運営負担を軽くするための予算というご意見には賛成です。その考えから、今回の東京支部会場使用料予算を多くしています。予算通りに執行されないために内部留保が積み上がっていく件については、事業が計画通りに行われているかの予実チェックを理事会でもきちんと行っていく予定です。

57) なぜ予算に対して余ったのか？余るのであれば会費を下げるという案もあると思うが、個人的な意見としては、有効に使って欲しい。

→ 会費の減額については検討していません。昨年度の予算に関しては、その一年前も900万の予実のズレがありました。昨年度だけの話ではありませんが、細目毎の予算管理のため、それぞれで少しずつ節約しようとする、全体で見ると大幅な予算のズレが生じてしまいます。ご意見として、承ります。

58) 予算の決定プロセスや今期の方針について聞きたい。マイナス予算の理由、背景を聞きたい。

→ なんらかの理由で大きな収入源であるセミナーが実現できなかったとしても、その1年間、調査研究事業などの支出を支えられるように、1,000万円程度を内部留保で持つ必要があると試算しています。その内部留保額を維持できるように、予算を組んでいます。また、基本はプラスマイナスゼロで考えています。単年度で発生する分(事業検討や新プロジェクトなど)で、結果的にマイナス予算となるのは、内部留保額を下回らない範囲としており、問題ないと考えています。

59) 租税公課(消費税)について。今年度は8%だが、消費税としての予算計上は前年度のままである。対応はどのように考えているか？

→ 年会費は非課税、セミナー売り上げは消費税があるが、今期予算上セミナー売り上げは前年度以下となっているため、消費税は前年度と同額程度と想定しています。

60) 支部への予算配分の考え方について知りたい。

→ 全体方針を理事会で決めて、各支部、委員会で予算を作ってもらっています。今年度は各支部、委員会で予算立案したものをそのまま採用しています。

61) 収益事業(セミナーなど)に従事している会員へ交通費を出すことは検討していないのか。

→ 今回の円卓会議の提言を受けて、公開セミナー委員会やファシ活委員会等の活動の見直しを進めていきますので、その中で、負担の在り方についても検討をしていきたいと考えています。

62) 昨年度、マイナス予算が、結果としてプラスになったという点について。使わなかったということだと思いが、理事会としてそれを良いと考えているのか？

→ 問題がないとは考えていません。定期的に予実のチェックをする仕組みを用意することで、うまく予算を使っていけるようになるのではないかと考えています。決算の数字は、活動の結果が反映されたものなので、数字の差に注目するよりも、活動ができたかどうか注目する必要があると考えています。そのあたりを今期の計画にある「活動しやすい予算管理」という言葉に込めました。

63) 22 ページの活動予算書が分かりやすくなった。今期マイナス予算の、マイナス分の説明として、「〇〇といった投資を今期はしていく」といったことも分かりやすく書かれているとさらによいと思う。

→ ご意見として、承ります。

64) 予算執行率を気にして安易な予算消化を行うのではなく、事業遂行度を大事にして欲しい。

→ ご意見として、承ります。

65) 300 人のスタッフのスキル(運営スキルなど)をあげる研修等のためにお金をつかってはどうか？

→ ご意見として、承ります。

66) 総会の議事資料が郵送で送られるはもったいない。とはいえ、紙でほしい人もいる。会員が選択できるようにしてはどうか。

→ 運営の負荷が増える可能性もありますが、検討します。

以上

総会議事資料正誤表

誤			正		
P21 4.交流・親睦事業			P21 4.交流・親睦事業		
事業内容	実施日時	実施場所	事業内容	実施日時	実施場所
地域イベント	4月	広島	地域イベント	4月	福山